

## 学位論文審査結果の要旨

氏名	越智 麻里奈
審査委員	主査 大八木 保政 副査 田中 潤也 副査 太田 雅明 副査 廣岡 昌史 副査 山之内 純

論文名 自閉スペクトラム症を背景にもつ不登校の臨床的特徴

### 審査結果の要旨

#### 【研究内容のまとめ】

目的：小・中・高等学校の不登校の背景として、生物学的・心理的・社会的要因が考えられており、生物学的要因の一つとして自閉スペクトラム症(autism spectrum disorder, ASD)などの発達障害がある。近年、発達障害児では不登校の割合が高いという報告や、逆に不登校児でも発達障害がしばしば認められる。したがって、不登校の予防や対策において発達特性の解析が重要と考えられ、本研究では、不登校を呈した ASD 児の臨床的特徴をあきらかにすることを目的に、診療録を用いて後方視的に検討した。

方法：2012年1月～2016年12月までの愛媛大学医学部附属病院精神科の初診患者のうち、初診時に不登校を呈していた18歳以下の246名を対象とした。不登校の定義として、英国の Berg の基準を用い、①遷延化した欠席状態に至る登校の困難さ、②登校を予測した時の情緒的混乱、③登校すべき時間に家庭にとどまっている、④盗み、うそ、放浪、破壊行動などの反社会性障害が存在しない、の4条件をすべて満たすものとした。一方、ASD の診断には DSM-5 の診断基準を用いた。不登校の要因については、文部科学省の平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」を参照し、複数回答可とした。統計解析は Mann-Whitney U test、 $\chi^2$  二乗検定を用いた。不登校の要因について ASD の有無についてロジスティック回帰分析を行い、 $p <$

0.05 を有意水準とした。

結果：患者背景の比較では、非 ASD 群 148 名(男児 51 名、女児 97 名)、ASD 群 98 名(男児 69 名、女児 29 名)で、ASD 群では男児が有意に多かった( $p < 0.001$ )。不登校開始年齢は、非 ASD 群が  $13.1 \pm 2.4$  歳、ASD 群が  $11.9 \pm 2.3$  歳で、ASD 群が有意に低年齢であった( $p < 0.001$ )。社会的機能を評価する Participant's Global Assessment Scale (PGA) では、ASD 群が有意に低かった( $p = 0.043$ )。一方、兄弟の有無、両親が片親かどうか、薬物療法の有無、不登校開始から初診までの期間は二群間で差がなかった。ASD 群における不登校の要因としては、性別、不登校開始年齢、いじめ、入学・編入学・進級時の不適応が有意に関与していた。ASD 群の男女別の多変量解析では、男児では不登校開始年齢( $OR = 0.982$ )といじめ( $OR = 6.056$ )が関与していた。また、女児では不登校開始年齢( $OR = 0.983$ )、いじめ( $OR = 11.998$ )、入学・編入学・進級時の不適応( $OR = 5.381$ )、身体症状など( $OR = 4.176$ )が有意に関与した一方、不安などの情緒的混乱は関与が有意に低かった( $OR = 0.316$ )。

考察：発達障害児の不登校発症時期は一般より低年齢という報告は散見され、本研究でも同様に ASD 群で低年齢であった。ASD 群における不登校の要因としては、不登校開始年齢やいじめが共通する一方、女児群で不安・情緒的混乱の関与は低く、身体症状が多いことが特徴的だった。発達障害児はいじめ被害が多いとの報告はあり、ASD 児においては、対人関係、社会性やコミュニケーションの困難さがいじめにつながっていることが考えられた。

本論文に対する公開審査会は平成 31 年 1 月 23 日に開催された。申請者から研究内容が英語で口頭発表された後に、本研究に関連して審査員から、①DSM-5 で ASD と診断するポイントや PGA の評価方法、②統計解析の具体的方法やマッチング検討の予定、③ASD の早期診断のポイント、④ASD の有無で不登校の改善度が異なるか、⑤ASD が不登校の要因である場合の対処法、⑥ASD と ADHD の臨床的な違い、⑦非 ASD 群における不登校の要因や ASD 群との違い、⑧ASD の環境要因、などに関して質問がなされた。

これらに対して申請者は、質問の意図を十分に理解した上で、詳細かつ明解に応答した。本論文は、自閉スペクトラム症における不登校の要因を詳細に解析したもので、臨床的に有用な知見を含んでおり、今後の臨床的研究の発展が期待される。審査委員は一致して本論文を高く評価し、博士（医学）の学位論文に値するものと結論した。